

体育祭の練習が始まりました。行事が多い2学期は、授業の時とは異なった発見があり、個人や集団が大きく成長するチャンスです。取組を通して味わう「協力」「連帯」「克服」「達成」が大きな感動を呼び、大切な財産となって心と体に蓄積されていくことでしょう。目標に向かってひたむきに臨むみんなの姿はとても素敵です。



## 全国学力・学習状況調査からみる朝明中生 その2

前号に引き続き、本年4月19日に中学校3年生を対象に実施された「全国学力・学習状況調査」の結果から、今回は「理科」と「生徒質問紙」から見える今年の朝明中生の強み弱み、生活の実態を紹介します。

### 中学校理科

#### ◆ 日常生活に関する問題の正答率が高いが、観察・実験の考察が苦手

ダイオウグソクムシやダンゴムシ、生物Xやアリなどのリアルな絵が登場してきた今回の理科の問題でしたが、それら動物の体のつくりやはたらきの問題の正答率は、ほぼ全国平均並みでした。日常生活での現象を選択する問題では全国平均を4%以上上回っており、

#### 理科の平均正答率

朝明中	47%
三重県(公立)	48.1%
全国(公立)	49.3%

学習内容を日常生活に関連付けて考えることができます。また、「地球」の分野や「エネルギー」の分野で、思考力を要する問題が、全国平均を2~3%上回っています。全体的に難しい問題を解くことができる割合と無回答率の割合が二極化しているようです。

弱みとしては、エネルギー分野で様々な力を矢印で表しますが、その矢印自体の意味が理解できていないなど、事象に対する根本的な部分が理解できていないところもあります。観察・実験の結果の考察なども苦手な傾向があり、考察の妥当性を高めるために、測定範囲と刻み幅をどのように調整して測定点を増やすかを説明する問題や予想や仮説と異なる実験の結果が出る場合の考えられる可能性について考え、探求の過程の見通しをもつことができるかを問う問題の正答率も全国平均と比べると大きな開きがありました。

#### ◆◆◆ 今後の改善点

理科に興味を持っている生徒は多く、日常生活と関連付けて学習に取り組める割合も高いようです。持っている興味をさらに広げて学習につなげ、学力を高められるような授業づくりをしていきます。また、実験や観察の過程を通して思考力が身に付けられるように指導方法を工夫していきます。

全体的に全国平均と比較しても差異のある項目が少なく、平均的な結果が出ていますが、とくに顕著に違いが出た回答について、検証していきます。

## ◆ 読書は好きだけど、新聞は読まない

「とても当てはまる」と「当てはまる」の割合が全国平均より高いポイントの項目の中で主なものは、

- 家で自分で計画を立てて勉強をしていますか (+6.4%)
- 学校の授業時間以外の平日の学習時間を「1時間より多い」と答えた生徒 (+11.8%)
- 読書は好きですか (+6.7%)、
- 1日の読書時間を「1時間以上」と答えた生徒 (+0.7%)
- 今住んでいる地域の行事に参加していますか (+17.3%)
- 地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがありますか (+11.4%)

読書が身近にあり、本を読む習慣がついている生徒が多いのですが、新聞については「ほぼ毎日読んでいる」が1.2% (全国は3%)、「ほとんど、または、全く読まない」が86.5% (全国は79.0%)と、全国的に読まない近年の傾向ではありますが、さらに、朝明中生は新聞を読む習慣はないようです。生徒が情報を得るメディアは、テレビやインターネットが中心であるため、今後は、それらから得る情報の真偽、信憑性を吟味する力を一層養っていかねばなりません。

スマホの利用については、家族との約束を守れている生徒は全国平均と同等ですが、利用に関して4時間以上使っている生徒が全国平均に比べて多く (+4.8%)、また2時間以上使っている割合も非常に高い結果 (+12.3%) となりました。

## ◆ 地域や社会に貢献できるが、さらに自己肯定感をもう少し高めたい

さらに、自己肯定感については、全国平均より低く (-3.0%)、昨年度と比較すると大きな開きがありました。(昨年度は82.9%が肯定的な回答をしていましたが、今年度の肯定的な回答は78.5%でした)。

また、ICT機器の授業使用頻度について、1、2年次では「週1回以上」と回答した生徒は36.8% (全国比-43.8%) でした。「調べる場面」(-45.4%)、「意見交換する場面」(-34.1%)、「考えをまとめ、発表する場面」(-31.6%)での活用に対する回答もまた非常に低い値となりました。学習でICT機器を使うことは勉強に役に立つという肯定的な回答は全国平均と同等でした。本調査以後、タブレットを活用する機会は格段に増えたので、本校でも使用頻度はさらに上がっています。今後も授業や家庭学習でもICT機器を使用する場面は増えることでしょう。学校としてもより効果的な活用方法を模索しながら、生徒の学習に役立てていきます。

また、地域行事への参加については、例年、系統だった地域理解学習を進めていることや、地域の方々の温かいご支援ご協力により、生徒に多くの行事や活動を通して地域と関わる機会をつくっていただいていることが、積極的な参加につながっていると言えます。